国語研の窓 22号

平成17年１月１日　第22号　発行　独立行政法人国立国語研究所
Independent Administrative Institution: The National Institute for Japanese Language

編集　国立国語研究所普及広報委員会
「国語研の窓」部会
〒115-8620 東京都北区西が丘 3-9-14
電話 03-3900-3111　FAX 03-3906-3530
URL http://www.kokken.go.jp/

国語研中庭の楷（かい）の木
楷は中国山東省にある孔子の墓所に植えられた木。木の姿が整然としていることが，書体「楷書」の語源となったと言われる。大正４年にその種子が日本に持ちこまれ，湯島聖堂など孔子と縁の深い地に植えられた。この写真の木は湯島聖堂から譲り受けたもので，立川新庁舎敷地内に移植される。

もくじ

暮らしに生きることば　1
研究室から：行政処理を支える漢字研究　2, 3
第21回「ことば」フォーラム報告　4
第22回，第23回「ことば」フォーラム報告　5
ことばＱ＆Ａ　6
刊行物紹介：『国語年鑑2004年版』　6
手話通訳と音声同時字幕システム　7
刊行物紹介：『日本語教育年鑑2004年版』　7
お知らせ：「ことば」フォーラム　8
立川新庁舎への交通案内　8
新刊　8

暮らしに生きることば

トコロの話

「めがねをかける」，「ソースをかける」，「号令をかける」，「腰をかける」…いずれの例でも「かける」という語が使われていますが，「かける」が表している意味はそれぞれ随分違うように感じられます。場合によって複数の意味を表す語を，「多義語」と言います。「かける」は，多義語の典型的な例です。

以下では，「ところ」という多義語について考えてみましょう。

(1)　ここは僕が昔住んでいたところです。
(2)　隆夫はたった今来たところだ。
(3)　もしも目覚ましが鳴らなければ，寝過ごすところだった。

(1)の「ところ」は，ある具体的な場所を表しています。一方，(2)の「ところ」は，「隆夫が来た直後であること」という時間的な表現として使われています。さらに(3)の「ところ」は，そうなりそうだったけれども，実際にはそうならなかった，という状況（反事実）を表しています。「ところ」はそもそも「場所」を意味する語でしたが，その使い方の範囲が広げられて，「時間」や「反事実」などの意味も表すようになったのです。

一般的に，基本的な意味を表す語や日常よく使われる語ほど，その語が本来持っている意味が広げられ，多義語になりやすいという性質を持っています。ある語の意味がどのように広がっていくかを研究することによって，多義語が成立する過程を明らかにしたり，語の中心的な意味と周辺的な意味の違いをとらえたりすることができます。

さらに「ところ」は，様々な意味で使われることがあります。次の「ところ」がどのような意味で使われているか，考えてみてください。（→解答８ページ）

(4)　このところ，晴天が続いている。
(5)　クリーニングが仕上がるまで，およそ三日というところですね。
(6)　彼女に聞いたところでは，誠也くんの就職が決まったそうですよ。

（丸山　岳彦）

研究室から

行政処理を支える漢字研究

1. 行政用の漢字を観察する

市役所や町村役場など，日本全国の行政機関は，いろいろな手続に関する書類のほとんどをコンピュータで処理しています。そのような書類には，住民の姓名・住所，あるいは企業などの名称・所在地などが記載されていることがよくあります。姓名・住所といった固有名詞には，様々な漢字が使われているのですが，それらは一体どのようなものなのでしょうか。

ここでは「文字の形」に注目して，行政機関で使われている漢字を観察してみましょう。図１を御覧ください。ここには，住民基本台帳のコンピュータ処理に使われている「慎」と，戸籍のコンピュータ処理に使われている「慎」が示されています。よく見ると，「真」の上部の「＋」の形に微妙な違いがあります。

たとえ微妙な違いであっても，漢字の形がバラバラだと，どの形を使うべきか迷ったり，違和感をおぼえたり，不安に感じたりする人がいるようです。また，住民から「この書類に印字された漢字の形は正しくないのでは？」という質問が行政機関に寄せられることもあると聞きます。しかし，今のところ，漢字の形を確認するための国の標準が存在しないため，住民からの申請や届出の審査に時間がかかったり，別の行政機関と漢字データを正確に情報交換できなかったりすることがあります。

① 文字図形統一番号
② 住基統一文字
③ 戸籍統一文字：「真」の上部「十」に注目
④ デザイン統一文字：「ハ」の形状などが住基文字と微妙に異なる
⑤ 大漢和辞典情報
⑥ 国語施策情報
⑦ JIS 規格情報

図１　文字情報収集システムの画面例

2. 行政用の漢字を統一する

以上の問題を解決するために，国立国語研究所，情報処理学会，日本規格協会の３者が協力しながら，共同研究を推進しています（このプロジェクトは，経済産業省からの委託によるものです）。最終目標は，総務省住民基本台帳統一文字，法務省戸籍統一文字の電子化にかかわる文字（延べ約８万字）について，微妙な字形の違いなどを統一し，行政情報処理の標準となる文字情報集積体（文字情報データベース）を構築することにあります。これは，図書館，公文書館，歴史資料館，郷土資料館などの文字資料の電子化（デジタル・アーカイブ化）にも貢献すると期待されています。

3. 文字情報集積体のあらまし

■国立国語研究所の役割

国立国語研究所は，総務省や法務省から公的に提供された行政漢字データに対して，学術的な検討をくわえて整理し，字体，読み，国語施策，文字コード番号などの体系化を行っています。

■日本規格協会の役割

行政用の漢字を統一するには，行政情報処理で利用されている文字の形の特徴を詳しく調査し，デザインなどを統一する必要があります。そのために，日本規格協会は，字の形についての標準パターンを作成しています。

この文字パターンは，平成明朝（みんちょう）体という書体に基づいて統一的にデザインされた高品質なデジタル

画像情報の集合体です。その例を図１に「デザイン統一文字」として示しました。このようなデザイン統一文字が，６万字種ほど作られる予定です。

■情報処理学会の役割

情報処理学会は，文字情報集積体のシステム開発を担当しています。

文字情報公開システムについて

だれでも，いつでも，利用できることを目指して，インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で必要な文字情報を検索できるようにしました。漢字の専門知識を持たない人であっても，簡便迅速に目的の文字を検索できるよう，次のような仕組みを装備しています。

○解字検索機能

部首・読みなどが分からない文字については，よく知られた文字を入力し，その文字を分解して取り出した構成部品を検索に用いることができるようになっています。これを「解字検索」といいます。この機能を実現するため，すべての登録文字について文字の構成部品を用意しました。解字検索の例を図２に示します。

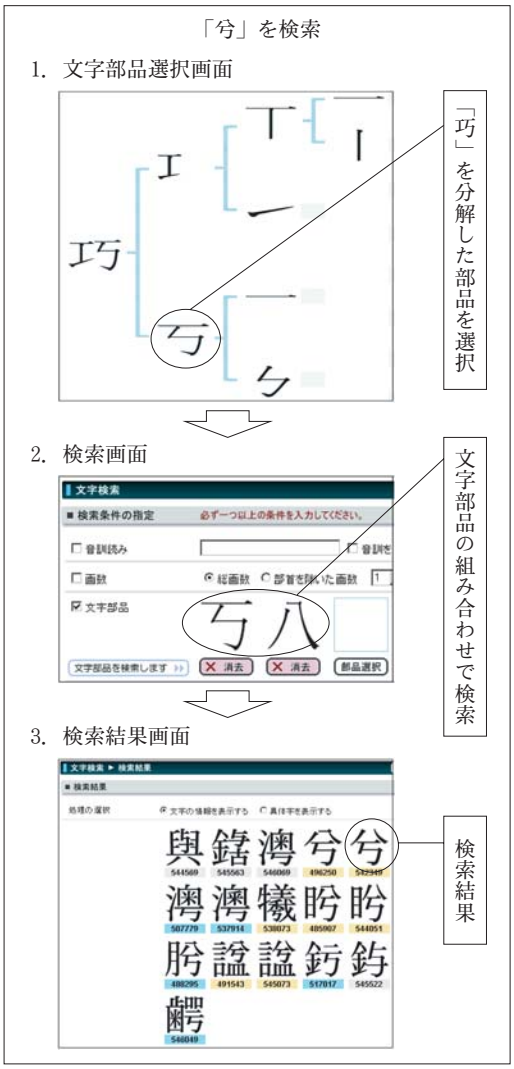


図２　解字検索の画面例

○関連字表示機能

読みと意味は同じなのに，形だけが異なる漢字を「異体字」といいます。異体字の関係にある文字の一覧を表示する機能もあります。その例を図３に示します。

これを見れば，行政機関の窓口で提出された書類の姓名・住所欄に見慣れない漢字があったとしても，その漢字が行政情報処理システムで扱えるかどうか，すぐに確認できます。なお，図３の「辺」の異体字は，100種類近くも存在するようなので，現在も調査を続行中です。

4. これからの展開

漢字問題は国民生活や行政業務に直接影響するため，境界的・融合的な色彩が濃く，単独の府省庁では対処しきれない側面を含んでいます。そこで，複数省庁が協力して，学界の垣根を越えて公的機関の連合体を組織し，大学や産業界の応援のもとに，漢字の形に関する国家標準を形成しようとしたのが，このプロジェクトです。ここで構築された漢字情報集積体は，文字符号の国際標準化に必要な資料として活用されることが期待されています。

（横山　詔一）

図３　「辺」の異体字一覧（想定例）

「ことば」フォーラム報告

第21回「こんにちは“コッケン”です。── みなさんの質問から ──」

さる７月17日（土曜日）午後１時から３時にかけ，埼玉県東松山市高坂市民活動センター公民館において，第21回「ことば」フォーラムを開催しました。参加者は約80名でした。

今回の開催のきっかけは，2003年度末のある日，公民館の一職員から国語研究所の電話質問に寄せられた「公民館独自の企画を国語研究所とともに練りたい。」という一本の相談の電話でした。当日は東松山市教育委員会の後援を得て，真夏の日ざしのもと，輝く青田に囲まれた会場での催しとなりました。

内容は，「こんにちは」を「こんにちわ」と書く表記の流行や，外来語やカタカナ語の氾濫（はんらん）など，日ごろの身近な日本語の問題や疑問をとりあげることになりました。そのため，広報ちらしには当日の話題の一部をきく事前アンケートを掲載し，回答を募集しました。

当日は，甲斐所長の開催の経緯にふれた「あいさつ」に続いて，前半に２名の研究所員の発表がありました。

はじめに，小椋秀樹が「書き言葉のきまりとは」で，「常用漢字表」「現代仮名遣い」「送り仮名のつけ方」「外来語の表記」などのなりたちや意味を解説。特に「常用漢字表」の経緯や，混ぜ書き，仮名書き，ふりがな付き表記の選択について述べました。また文化庁「国語に関する世論調査」の語例をアンケートでも回答してもらい，特に読む時や書く時にどんな表記がのぞまれるか，といった傾向について言及しました。

次の尾崎喜光は，「おや言葉？」と題して，親になってから使う「～しなさい」「～してごらん」といった言い回しが，じつは丁寧で敬意を含んだ表現であることを指摘しました。大学生を対象にしたアンケートの結果を見ながら，自分が親に言われる言い回し，将来親になったらどう言うか，といった観点からの結果も紹介しました。

後半「みなさんの質問から」では，地元 FM ラジオ局「エフエムチャッピー」の篠田敬子パーソナリティの司会で，当日までにファクシミリで集まったアンケート結果や会場の質問から，特徴のある問題を山田がとりあげ，解説を交えて解答しました。アンケートには市民はもとより，地元の東京農業大学第三高等学校からも多くの生徒さんの回答が寄せられ，会場の中高年の参加者には耳新しい現代の高校生の家庭での話し言葉を紹介する機会にも恵まれました。

当日会場には，他の回のフォーラムと同様，同時字幕と手話通訳が行われました（7 ページ参照）。またロビーでは研究所の研究成果の一部を展示し，政府刊行物サービスセンターが「新『ことば』シリーズ」などの刊行物を販売し，いずれも参加者には好評を得ました。

（山田 貞雄）

第22回「現代の外来語」

第22回「ことば」フォーラムは，8月28日(土)，144名の参加者により，東京都渋谷区の東京ウィメンズプラザで開催されました。英語教育の専門家である鳥飼玖美子氏（立教大学），日本語学の専門家の佐竹秀雄氏（武庫川女子大学）をお迎えし，田中を加えて3名が講演し，その後，会場からの質問意見に答える形で討論を行いました。

田中は，外来語が日本人にどの程度理解されているのかについての調査をもとに，分かりにくい外来語の特徴を述べました。そうした分かりにくい外来語を分かりやすくする言葉遣いの工夫を提案している，国立国語研究所「外来語」委員会の活動を紹介しました。

佐竹氏は，新聞の紙面別の外来語調査の結果をもとに，暮らしの中の外来語に関して，人々がどのような意識で受け止め，用いているかについて，多角的に考察しました。外来語がもつ外見的な効果と，実質的な意味とを区別する必要性を主張しました。

鳥飼氏は，当事者間の理解の阻害，本質の隠蔽(いんぺい)，英語との音や意味のずれ，の三つの側面で，外来語はコミュニケーション上で問題を起こしがちであることを，豊富な事例により説明しました。外来語に限らず，批判精神をもって言葉を用いることの重要性を強調しました。

会場からは，講演者に対して同感の意見が寄せられるとともに，増え続ける外来語への当惑，英語を学ぶ上での外来語への対処法など，外来語をめぐる率直な感想や疑問が出されました。これらを踏まえ，現代人として外来語にどのように対応していけばよいかについて，講演者それぞれの立場から総括を行い，会を終えました。　（田中 牧郎）

第23回「外来語とどう付き合うか」

第23回「ことば」フォーラムは，11月6日(土)の午後2時から4時半まで，兵庫県西宮市の武庫川女子大学日下記念マルチメディア館で開催されました。同大学の言語文化研究所との共催で実施し，参加者は133名でした。

今回は，国立国語研究所「外来語」委員会の活動を紹介するとともに，現代に生きる上で，外来語とどのように付き合っていけばよいのか，身近な問題から行政の問題まで，幅広く取り上げて一緒に考えてみることにしました。

フォーラムの前半では，三つの講演を，①相澤正夫（国立国語研究所）「外来語の言い換え提案」，②陣内正敬（関西学院大学）「外来語を育てるとは」，③佐竹秀雄（武庫川女子大学）「暮らしの中の外来語」の順に行い，後半では，それを受けて会場からの質問に答えながら，外来語との賢い付き合い方について話し合いました。

参加者からの積極的な質問により，外来語問題への関心の高さを改めて実感しました。激しい勢いで日本語に入ってくる外来語，それをうまく取り込むにはどうすればよいのか，たくさんのヒントが得られた会であったと思います。　（相澤 正夫）

ことばQ&A

質問　私は日本人で，日本の会社のインドネシア支社に勤めています。インドネシアの社員は，「今日の午後休みを取りたいのですが」などの用件を先に述べ，理由を聞かれた後に，「子供が急に病気になって」というような理由を伝えます。日本では，用件よりも理由を先に言うのが普通だと思うのですが。

回答　近年，異なる文化背景を持つ人がコミュニケーションをする機会が増えてきました。そのような場で行われる，自分と異なるコミュニケーションの方法に対して違和感を覚えることもあるでしょう。

質問にあるように，インドネシアでは，まず，相手に用件を伝えて，理由は後で述べるという順序が普通のようです。一方，日本人は，用件よりも理由を先に述べることが多いと思われますが，それは，どうしてでしょうか。

「用件」というのは，自分の要求に当たります。一方，「理由」は，なぜその要求を行いたいのか，相手に説明することを目的とするものです。そのため，「用件」を先に述べると，自分の主張が前面に出てしまい，自分の都合を優先しているという印象を相手に与えます。逆に，「理由」を先に述べると，相手への説明が優先されるわけですから，相手を重んじていて「丁寧だ」という印象を与えるわけです。

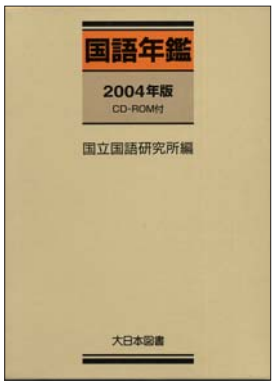
では，まず「用件」を述べるというインドネシア式の発想は，どんな考えが基になっているのでしょうか。インドネシアの友人によると，「理由」は，相手に対する説明に当たるので，それをくどくどと述べると，言い訳をしているように聞こえるそうです。それよりも「用件」をずばり述べる方が，効率的で丁寧なコミュニケーションであると言います。用件に至るまでの理由説明が長いと，相手は何が話の目的なのだろうかと推測しなければなりません。しかし，用件を先に言うと，そのような推測の手間が省けるため，相手に対して「丁寧だ」と考えられているのです。

このように，片方の考えを基準にすると，違和感のあるやり方も，別の視点で見てみると，相手に対して丁寧でありたいという根底の考えは実は同じだ，ということもあるのです。

異なる文化や言語を持つ人々との交流は，今後もますます増えることでしょう。「郷に入れば郷に従え」式にどちらかのやり方を押し付けるのではなく，コミュニケーションの背後にある考え方にも目を向けることで相互理解がより深まるのではないでしょうか。

（椙本　総子）

刊行物紹介



『国語年鑑2004年版』

昭和29年の創刊以来，日本語の研究情報に関する基礎的な文献として重用されてきた『国語年鑑』の2004年版を，このほど刊行しました。

○**第１部「動向」**…第２部を資料とした文献の動向，及び本研究所の「ことばに関する新聞記事見出しデータベース」を資料とした社会における動向について述べました。

○**第２部「文献」**…2003年中に発表されたものを中心として，日本語に関する図書や，雑誌に掲載された文献，そして日本語に関する内容を含んだ総合月刊誌の特集・連載・対談を，それぞれ目録の形で一覧できるようにまとめました。

○**第３部「名簿」**…日本語にかかわりの深い個人や学会・団体等の情報を掲載しています。

○**第４部「資料」**…文化審議会の答申「これからの時代に求められる国語力について」，本研究所が行った第２回・第３回の「外来語」言い換え提案（それぞれ『国語研の窓』18号・21号に解説を掲載）などを収録しました。

○**付録 CD-ROM**…第２部のうち「刊行図書」「雑誌文献」のデータを収めました。

＊御購入に関するお問い合わせ先：大日本図書（電話03-3561-8679）
＊『国語年鑑』のホームページ：http://www.kokken.go.jp/katsudo/kanko/nenkan.html

手話通訳と音声同時字幕システム

「ことば」フォーラムでは，2002年度から手話通訳を導入しています。各地の手話通訳者の方々には，込み入った日本語の世界を手話で紹介していただくよう，常にない努力をしていただいています。「ことば」フォーラムの話題は，専門用語，論文名，研究者名や地名などの固有名詞も多く，対談や質疑の内容は予測がつかない上，やり取りが当意であったりします。さらに話し言葉やコミュニケーションの話題は，内容そのものが手話の言語世界になじまない場合もあるようです。

さて続いて2003年度から「ことば」フォーラムでは，「同時字幕」も採用しています。これは，会場で話される講演や対談，司会にいたるすべての音声を，話者の別を示しながら数秒の時差でスクリーン上に逐語的な文字情報として表すものです。

この「音声同時字幕システム」は，もともと東京大学の聴覚障害者支援を目的に，東京大学先端科学技術センターと民間企業で共同開発されました。東京大学バリアフリー支援準備室をはじめ，民間では株式会社ビーユージーが業務を展開しています。

具体的には，会場から電話回線で音声を送り，復唱者が等質な音声に言い換えます。次にあらかじめ作った専門用語などの専用辞書を用い音声を文字化します。最後に変換の確認訂正を施した文字情報を電話回線で会場に戻し，それをパソコンで受けプロジェクタでスクリーンに映しています。

字幕は「等生化」の象徴のようなもので，ちょっと話題や話の展開について行けない，何だか耳慣れない術語が気になる，話者の言葉の特徴が聞き取れない，といった参加者の悩みへの解決方法として，健聴者の役にもたっているという面があります。OHP や実物投影で要旨を交替で書き示す従来の方法と比較してみても，語変換の精度を将来さらに高めれば，この同時字幕は有意義な情報伝達手段であると思われます。

（山田 貞雄）

『日本語教育年鑑2004年版』

『日本語教育年鑑』は，国の内外で展開される日本語教育の現況や，日本語教育研究の動向について，最新の情報を広範かつ具体的に集成し，情報交流の基盤となることを目的に2000年から編集・刊行しています。

○**第１章　特集「教育・学習を改めて考える」**…社会の状況が変化する中，日本語教育もますます多様化の方向に向かっています。2004年版では，「分かる」「できる」「学ぶ」ということはどういうことかという根本的な問題を改めて問い直しています。

○**第２章　日本語教育の動向**…日本語教育機関・団体からの2003年の活動報告を掲載しました。

○**第３章　日本語教育関係機関，助成研究課題**…関連学会・研究会，海外教師会等のリストのほか，関連領域の文部科学省科学研究費補助金採択課題，助成財団のリストを掲載しました。

○**第４章　日本語教育文献**…2002年４月から2003年３月までに発行された日本語教育関係の文献情報です。図書，論文のリストを掲載しています。

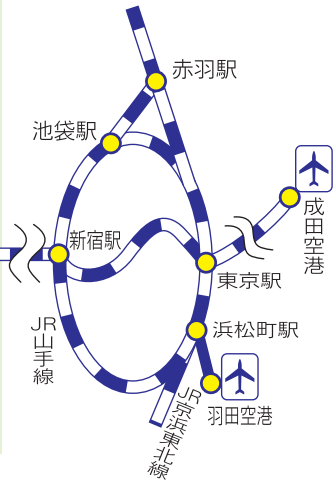
国立国語研究所日本語教育部門では，日本語教育関連の文献・資料を収集しています。関係資料や情報がありましたら，日本語教育部門『日本語教育年鑑』担当あて御寄贈いただけると幸いです。

平成17年度「ことば」フォーラムの予定

「フォーラム」とは「広場」という意味の外来語ですが，国語研究所では，一般参加者の方々と一緒に言葉について考えたり話し合ったりする機会を「ことばフォーラム」と名付けて，毎年５回程度開催しています。

17年度は，５月14日（土）の立川新庁舎講堂での第25回「国立国語研究所の歩みと展望」（仮題）をはじめとして，５回を計画しています。詳細は次号の「国語研の窓」やホームページで御案内します。今年も多数の参加をお待ちしています。

◆２月１日からの新住所
立川市緑町3591-2
代表電話：042-540-4300



新　　刊

1　**『日本語科学16』**
2004年10月／国書刊行会／B5 判横組み122ページ／税込3150円

2　**全国方言談話データベース**
『日本のふるさとことば集成 ― 第８巻　長野・山梨・静岡 ―』（国立国語研究所資料集 13－8）
2004年11月／国書刊行会／冊子（A5 判横組み269ページ），CD，CD-ROM／税込7140円

3　**『国語年鑑2004年版』**
2004年11月／大日本図書／冊子（A5 横組み737ページ），CD-ROM／税込8400円

4　**『日本語教育年鑑2004年版』**
2004年12月／くろしお出版／冊子（A5 横組み598ページ）／税込4800円

〈１ページの解答〉　(4)「最近」「近ごろ」などと同様，現在であることを表す時間的な表現。
(5) その程度の日数であるという目安を表す数量的な表現。
(6) 後に続く内容が伝え聞いた情報であることを表す表現。

©2005　国立国語研究所